

令和7年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

グローバルに活躍する資質・能力を育成するため、言語活動を通して資質・能力を育成することを目指した授業改善、A L T等との効果的なチーム・ティーチングの推進を図る。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CAN-DORリスト形式の学習到達目標の設定状況等に改善が見られる。

	R4	R5
設定	96.9%	→ 100%
公表	54.2%	→ 58.6%
把握	82.4%	→ 83.5%

②授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合に改善が見られる。

(R4:93.3%⇒R5:96.7%)

①自分のことや身近なことについて話すことができると回答する児童の割合(本市調査)について、未だ課題が見られる。

(R5:67.0%⇒R6:68.0%)

②A L Tの話す内容が理解できる児童の割合(本市調査)について、未だ課題が見られる。

(R5:73.0%⇒R6:74.0%)

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①②教育センターの対面型の研修や研修動画配信、義務教育課作成の研修動画配信を通じて、言語活動の必要性の認識が高まったことで、言語活動の時間が増えたと考えられる。

①児童にとって興味・関心をもって取り組めるように言語活動が設定されていなかったり、児童が自らの学びを振り返る機会が設定されていなかったりすることが要因と考えられる。

②児童にとって分かりやすい目的・場面・状況が設定されていない。また、外国語活動・外国語科以外の授業や学校行事でのA L Tとのコミュニケーションの機会が設定されておらず、効果的にA L Tを活用できていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

多様性・協働性・コミュニケーション能力・課題解決力を身に付けたグローバルに活躍する児童の育成を目指し、以下のように取り組む。

①CAN-DORリストの活用の推進

教育センターでの経年研修や応募研修、義務教育課作成の研修動画配信を通じて、CAN-DORリストの達成状況の把握や児童との共有(公表)を通して言語活動の質を高めたり効果的に学校間連携をしたりするよう促す。また、一定の英語力を有する新規採用者が、教育センターでの研修を通じて情報提供する機会を設ける。

②①言語活動を通じた授業改善の推進

教育センターでの経年研修や応募研修、義務教育課作成の研修動画配信を通じて、本市が目指す「子ども中心の学び」の考え方を示した「ナゴヤ学びのコンパス」の方針を踏まえながら、児童が興味・関心をもって取り組めるような言語活動や効果的な振り返りについて理解を深める研修を行い、授業改善を促す。

②A L Tを生かした授業改善の推進

外国語指導アシスタント(応募条件:英語能力の高い者で、英検2級相当以上の能力を持ち、日常会話が英語で行えること)派遣からA L T派遣に変更して2年目である。この状況を踏まえ、学校とA L Tとのコミュニケーションを円滑にし、授業改善を図ることができるようA L Tコーディネーターを小学校に派遣する。また、活用事例集を作成し、効果的なA L Tの活用法を周知する。

参考URL: <https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/compass>

令和7年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

グローバルに活躍する資質・能力を育成するため、言語活動を通して資質・能力を育成することを目指した指導改善を推進する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 58.4% ⇒ R7 : 65%)

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合に改善が見られる。

R5 R6
56.1% → 58.4%

②R6全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、英語で発表する活動を行ったと回答した生徒の割合に改善が見られる。
(R5:77.9%⇒R6:80.3%)

未だ改善が必要な点

①自分のことについて話することができる生徒の割合(本市調査)について、課題が見られる。
(R5:59.0%⇒R6:51.0%)
②ICTを活用した言語活動の割合(授業中の50%以上)について、未だ課題が見られる。
(R5:12.5%⇒R6:24.8%)

2. 要因分析

① ②教育センターの対面型の研修や研修動画配信、義務教育課作成の研修動画配信を通じて、言語活動を通じた資質・能力の育成やパフォーマンステストの効果についての理解を促したことで、英語での言語活動の実施が増え、英語力が向上したと考えられる。

①生徒が興味・関心をもって取り組めるように言語活動が設定されていなかったり、生徒が自らの学びを振り返る機会が設定されていなかったりすることが要因と考えられる。
②効率的かつ効果的にICTを言語活動に活用する方法が分からないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

多様性・協働性・コミュニケーション能力・課題解決力を身に付けたグローバルに活躍する生徒の育成を目指し、以下のように取り組む。

①CAN-DOリスト活用を通じた英語力向上
教育センターでの経年研修や応募研修、義務教育課作成の研修動画配信を通じて、CAN-DOリストを活用した学校間連携や系統的な指導について理解を深める研修を行い、英語力向上を目指す。
②①言語活動を通じた授業改善の推進
教育センターでの経年研修や応募研修、義務教育課作成の研修動画配信を通じて、本市が目指す「子ども中心の学び」の考え方を示した「ナゴヤ学びのコンパス」を踏まえながら、生徒が興味・関心をもって取り組めるような言語活動や効果的な振り返りについて理解を深める研修を行い、授業改善を促す。
②ICTを活用した授業改善の推進
発話量や発話の質を改善するため、教育センターでの経年研修や応募研修、義務教育課作成の研修動画配信を通じて、効率的かつ効果的に生成AIやデジタル教科書などのICTを言語活動に活用した授業改善を促し、指導力向上を図る。また、教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修と英語資格・検定試験の特別受験制度の受講を促す。

参考URL :

<https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/compass>

令和 7 年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力、グローバルに活躍するための資質・能力を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 42.3%、B1以上 15.8% ⇒ R7 : A2以上 60%、B1以上 25%)

☐ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①英語による言語活動の時間の割合（授業中の50%以上）が増加した。
(R5:36.4%⇒R6:50.0%)
- ②英語担当教師の英語力の状況 CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合が増加した。
(R5:85.4%⇒R6:91.5%)
- ③英語担当教師の英語使用状況（発話の50%以上）の割合が増加した。
(R5:28.6%⇒R6:34.1%)
- ①生徒の英語力の状況 CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が減少した。
(R5:50.2%⇒R6:42.3%)

2. 要因分析

- ①について、言語活動を通して資質・能力を育むことの重要性の理解が進んだ。ICTやAIの活用も含め、さらに周知することが必要である。
- ②において、英語担当教師の外部検定試験助成を活用する等資格取得の機会の周知を行ったことが一因と考えられる。
- ③について、英語をコミュニケーションの手段として用いた授業改善が進んだ。さらに強化する必要がある。
- ①において、授業改善を推進するための研修の実施や、評価の改善をより一層強化する必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③①高等学校教育課程研究集会
学習指導要領の趣旨の周知と、授業改善の推進を図るため、高等学校教育課と教職員研修・採用課が連携して実施する。ICTの活用やAIの活用について周知を行う。
- ①②③①教職員研修・採用課研修
・高等学校各科研修講座
最新の教育動向、学習指導要領を踏まえ、授業力等の更なる向上を図る。
- ・高等学校探究セミナー
授業改善を推進するために、授業や評価の改善の理論を学ぶ。
- ・高等学校学びの変革研修
学習指導要領の趣旨に沿った高等学校における授業の在り方を研究し、教員としての資質・能力の向上を図る。
- ・経年研修での外国語教育に関わる研修
- ・高等学校ICT・ネットワーク研修講座
各校の教育活動に適応したICT活用の在り方について学び、実践を行いながら、得た知識・技能を市立高校全体に広げる。
- ①②①ALT等の配置（全高等学校）
各校・各学科の特色に応じて、外国人英語指導助手や常勤または非常勤の外国人英語教諭を配置する。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

名古屋市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	50.2	55	42.3	60		65		70		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	19.8	20	15.8	25		30		35		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	36.4	60	50.0	65		70		75		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	28.9	90	32.9	95		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	70.6	100		100		100		100	
		公表(%)	100	35.3	70		80		90		100	
		達成状況の把握(%)	80	47.1	60		65		70		75	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	85.4	90	91.5	92		94		96		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60	28.6	55	34.1	60		65		70		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	56.1	60	58.4	65		70		75		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	55.8	80		90		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	80.3	90		95		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	50.9	70		80		90		100	
		達成状況の把握(%)	85	67.3	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	52	48.2	52	51.1	53		54		55		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60	51.5	60		65		70		75		

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種		指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	60	58.6	65		70		75		80	
		達成状況の把握(%)	85	83.5	90		95		100		100	